いしこし地域づくり計画書

～ 共に支え合う 住み良いまち『いしこし』 ～

令和6年3月

石越コミュニティ運営協議会
（いしこし地域づくり計画策定委員会）

【 目 次 】

◆第1章◆ 石越地区の現状と課題 …… 1

1 計画の目的

2 現状

3 課題

◆第2章◆ 地域づくりの基本理念 …… 2

目指す将来像

◆第3章◆ 地域づくりの取り組み …… 3

1 地域づくり計画書の体系図

2 取り組む内容

◇ いしこしに活力を与える『人づくり』

◇ いしこしにうるおいを与える『環境づくり』

◇ いしこしを楽しむ『ゆとりづくり』

≪ 資 料 編 ≫

資料1 石越地域カルテ …… 7

資料2 策定作業の経過 …… 9

資料3 いしこし地域づくり計画策定委員名簿

◆第１章◆　石越地区の現状と課題

１　計画の目的

登米市には21地区のコミュニティ組織があり、地区の資源や特性を生かしながら地域が抱える課題の解決を図るため、平成25・26年度に「地域づくり計画」を策定しました。計画期間は、概ね５年間となっており、コミュニティ組織における将来人口や年齢構成の変化など、地域の実情に応じて見直しを行うこととなっています。

石越コミュニティ運営協議会では、平成25年８月から策定作業に取り組み、平成26年度を初年度として５ヵ年計画（平成26.4～平成31.3）を策定しました。

平成30年12月には、これまでの計画を見直し、新たな５ヵ年計画（平成31.4～令和6.3）を策定したところです。

令和５年度には、地域づくり計画の策定から10年という節目を迎え、これまでの取組の検証を行いながら、新たな地域課題の把握や地域資源の発掘に努め、これらに結び付く地域づくり事業を計画に盛り込むこととしました。策定に当たり、各部会等の協議の中で、次の４つの基本方針を決定しました。

1　「いしこし３づくり計画」の事業を検証するとともにその方針は継続する。
2　目的を明確にして、コンパクトで現実的な計画を策定する。
3　策定委員に若者や女性の参加を得て、幅広い層からの意見を取り入れる。
4　行政とコミュニティ組織の役割を明確にするとともに、関係団体との連携を探る。

今後は、この計画に基づいた事業を展開しながら、地域の課題解決や活性化につなげていきたいと思います。

2　現状

（1）人口の変化

石越地区は、平成17年4月の9町合併時、人口は5,944人の町でした。しかし、令和6年3月には、4,256人まで減少が進みました。

この傾向は、今後更に加速すると考えられます。

（※令和12年と令和22年は予測値参照：出典
IIHOE〔人と組織と地球のための国際研究所〕）

石越の人口推移

年号	人口
平成2年	6,804人
平成12年	6,438人
平成22年	5,475人
令和2年	4,588人
令和12年	3,547人
令和22年	2,627人

（2）運営の変化

平成25年4月には石越公民館の運営管理が指定管理者制度となり、石越コミュニティ運営協議会が運営主体となりました。これにより、事業の運営方法や取り組む内容に住民の声が届きやすくなり、地域の声を活かした石越地区ならではの創意工夫した事業を展開しています。

運営主体の変更から10年目を迎え、石越公民館が更なるコミュニティ活動の拠点となるためにも、今後の進むべき指針となる地域づくり計画は不可欠なものです。

3　課題

いしこし地域づくり計画策定委員会では、地域の特徴や課題等について話し合い、「地域カルテ」を作成しました。少子高齢化や人口減少に伴い、今後は公共施設の統廃合による利便性の低下や災害時における災害弱者の移動手段の確保、地域にある空き家対策など、様々な地域課題への対応が期待されています。

こうした中で、これからの地域づくりは、住民とコミュニティ組織、関係団体や行政などが力を合わせ、住み良いまちを目指していくことが求められています。

そのためには、地域住民一人一人が地域づくりに対し、意欲や熱意、地域への誇りや愛着を持って、住民が主体的に取り組むことが重要です。

◆第2章◆　地域づくりの基本理念

地域づくりを進めるに当たり、少子高齢化や人口減少が進む中で、地域課題に対して共に支え合い、心豊かなまちを目指すため、次の将来像を定めました。

目指す将来像

“ 共に支え合う　住み良いまち『 いしこし 』”

◆第３章◆　地域づくりの取り組み

１　地域づくり計画書の体系図

目指す将来像　共に支え合う 住み良いまち『 いしこし 』

◇ いしこしに活力を与える『人づくり』

（詳しくは、P４に掲載）

- 方向性１：世代間交流の機会を増やそう
- 方向性２：若い担い手を育てよう

◇ いしこしにうるおいを与える『環境づくり』

（詳しくは、P5 に掲載）

- 方向性１：豊かな自然環境を守ろう
- 方向性２：きれいな生活環境をつくろう

◇ いしこしを楽しむ『ゆとりづくり』

（詳しくは、P6 に掲載）

- 方向性１：いしこしで楽しもう、遊ぼう、ふれ合おう
- 方向性２：郷土愛を高めよう

2　取り組む内容

いしこし地域づくり計画策定委員会では、高校生を含む15人の策定委員で5回にわたり協議を進めてきました。10年前の「いしこし3づくり計画」を検証するとともに、石越の特徴や課題をまとめた「地域カルテ」の作成をとおして、これからの地域づくり事業の計画を策定しました。

今後は、活動内容の取組、財源の確保に努め、関係団体や行政と連携・協働しながら事業を展開していきます。

◇　いしこしに活力を与える『人づくり』

方向性１：世代間交流の機会を増やそう

考え方　子供は地域の宝です。「子供は、家庭で育ち、学校で学び、地域で成長する。」と言われます。子供たちの成長には、家庭や学校での学びのほか、自然の中や地域の人々との世代間交流など様々な経験が大切だと考えました。

活動内容　・体験活動の充実　・小中学生の市民体育祭などの行事への協力、参加
・小中学生スポーツ大会への支援　・小中学生対象のニュースポーツ大会

方向性２：若い担い手を育てよう

考え方　「地域づくりは人づくり」と言われます。目指す将来像の具現化のためには、より多くの次世代の担い手の育成や多様な人材の発掘が特に重要です。
若い担い手の育成事業に積極的に取り組みながら、石越の地域全体で支える土壌づくりを行います。

活動内容　・若者と高齢者との交流　・青年活動の充実発展　・多様な人材の育成

『石越地区市民体育祭』

『４プリ養成塾』

『若者井戸端会議』

◇いしこしにうるおいを与える『環境づくり』

方向性１：豊かな自然環境を守ろう

考え方　策定委員会では、石越の自然環境のすばらしさに関する意見が多く出されました。道路脇の草刈りや堤防の雑草駆除（特に外来種のセイタカアワダチソウ）の要望が多くあり、対策に取り組む必要があります。

活動内容　・いしこしの魅力再発見　・自然の豊かさを感じられる環境づくり
・野焼きのルール順守

方向性２：きれいな生活環境をつくろう

考え方　住み良いまちづくりのためには、交通安全や環境美化の観点からも、道路環境の整備やゴミの出し方、ペットの飼い主のマナー向上への取り組みが大切です。
石越に住む一人一人が、日々気持ちの良い生活を送るため、身の回りの生活環境から改善し全域に広めていく必要があります。きれいに管理されている地域では、犯罪が発生しにくいなど、防犯上の面からも効果が期待できます。

活動内容　・公園等の清掃活動の実施　・リサイクルゴミへの意識向上
・支え合いの心の育成　・空き家対策

『海上連親水公園環境整備』

『花いっぱい運動』

◇　いしこしを楽しむ『ゆとりづくり』

方向性１：いしこしで楽しもう、遊ぼう、ふれ合おう

考え方　憩いの場として、身近にある公園などを「ゆとり」や「やすらぎ」を感じる空間として創造していきます。また、高森パークゴルフ場の利用促進を図るため、運営者と地域で協力して盛り上げる取り組みを検討していきます。

活動内容　・パークゴルフ場の利用促進　・桜やあじさいの名所づくり
・ＪＲ石越駅の活性化　・まるごといしこしまつり

方向性２：郷土愛を高めよう

考え方　石越地区には、数多くの有形無形の文化財のほか、様々な行事があり、私たちには、先人たちが残した貴重な財産や地域を愛する想いを次の世代に引き継いでいく責任があります。

これまで伝承してきたものを後々まで継承し、地域全体の宝として認知度を高めていきます。

活動内容　・伝統文化の継承と支援　・石越音頭の普及推進　・昔遊びや昔話の伝承
・史跡の保存、継承

『いしこし光のページェント』

『石越パークゴルフ大会』

『コミュニティ芸能祭』

『石越音頭』

≪ 資 料 編 ≫

資料Ⅰ　石越地域カルテ

地域内の個別状況				
No.	項　目	現　状	特　徴 （良いところ）	課　題 （困っていることなど）
1	地域の特徴	・登米市の北西部に位置し中央に東から西にのびる丘陵がある。その峰づたいに県道が走り、市街地的集落が発達し、この丘陵をとりまいて水田が広がっている地域である。	・コミュニティ活動が盛んで、地域内の結びつきが強い。 ・安心感のある地域である。 ・海と山の中間に位置し、気候温暖、過ごしやすい。 ・交通手段が多様で、生活の利便性が高い。	・少子高齢化が進行している。 ・新しい産業や企業誘致が望めない。 ・買い物難民が見込まれる。
2	主な施設	・登米市石越総合支所 ・石越にじいろこども園 ・石越小学校・石越中学校 ・八嶋中央診療所 ・石越郵便局・長根郵便局 ・JA みやぎ登米東部石越店 ・JR 東北本線石越駅 ・石越公民館 ・石越総合運動公園 ・石越体育センター ・石越保健センター ・石越福祉センター ・特別養護老人ホーム風の路 ・チャチャワールド ・高森パークゴルフ場	・公共施設が中央部に集約されており便利である。 ・一通りの施設はあり、人口に応じた規模である。 ・こども園から中学校までそろっている。 ・施設が新しいところ（こども園、中学校、診療所）。 ・一町一校のため子供たちのつながりが深い。	・公共施設の統廃合による利便性の低下が懸念される。 ・中学校の統合で地域住民と中学生世代との交流が薄れる。 ・一町一園のため選択肢が狭まる。 ・ＪＡの窓口業務がなくなり不便である。 ・商業施設がないため買い物が不便である。
3	地域内の自治施設	・各地区集会所 ・消防ポンプ倉庫	・各地域に設置され、地域活動の拠点となっている。 ・多くの集会所はきれいで、使いやすい。	・維持管理に地域の負担（人的、財政的）が大きくなっている。 ・消防団員が減少するとともに倉庫内の消防器具の更新が必要である。 ・老朽化した集会所もある。
4	指定避難所 安全対策	・石越体育センター ・石越公民館 ・石越小学校 ・石越中学校	・中心部の高台にあり、分かりやすく安全性が充分である。 ・ドクターヘリの発	・交通弱者、高齢者の移動手段が課題である。 ・災害訓練を行い、災

		・石越保健センター ・石越防災センター ・石越福祉センター	着が可能である。 ・駐車場も広く、屋外での活動するスペースも十分確保されている。 ・地震に強い場所にある。	害への意識を高める必要がある。 ・避難困難者への対応について、行政区ごとのマニュアルの共有化が必要である。
5	連携している団体	・石越文化協会、石越地区体育協会等の各種団体	・地域に根付いた団体が多く、気軽で積極的に協力し、連携は良好である。 ・子供たちの育成にも力を入れている。	・各団体の日程調整が必要である。 ・高齢化や後継者不足により委員が重複しているので、団体の縮小が必要である。
6	地域環境	・空き家の増加 ・買い物弱者の増加 ・独居老人世帯が多い ・少子化	・運動施設と福祉の環境が充実している。	・支援する側より支援される側の人数が多く対応しきれない。 ・困っていることを声に出せる環境づくりが必要である。 ・交通弱者の救済が課題である。
7	自然環境	・親水公園や堤に白鳥が、水田には雁が飛来する	・自然環境が豊かで、道の近くに見られる花壇がきれいでとても印象が良い。 ・桜がとても綺麗で観光できる。	・各団体でのクリーン活動の継続、実施が課題である。 ・道路へのゴミのポイ捨てが多いので、清掃活動が必要である。
8	地域交通	・市民バス、住民バスが運行している ・免許がないと買い物に不便な状況である	・交通手段（JR石越駅や新幹線、高速道路等）が多様である。	・コミュニティバスの周知と利用促進が望まれる。 ・高齢化により、交通弱者が増えている。
9	歴史・文化	・赤谷神楽 ・芦倉須賀神流獅子舞 ・長下田神楽 ・まるごといしこしまつり ・石越冬のまつり ・花季展 ・石越音頭 ・山根前横穴墓	・単独町としての歴史が長く、郷土芸能の振興や継承に努めている。 ・イルミネーションを開催したことで、若い人がたくさん石越を訪れた。	・郷土芸能等（神楽）の後継者不足が課題である。
10	特産品 （名物・名産品）	・地酒「澤乃泉」 ・お米（ひとめぼれ） ・野菜 ・ホルモン ・仙台牛 ・牛もつはっと	・市内唯一の酒蔵で製造したリキュールが話題となり、テレビ番組でも取り上げられた。	・これら以外の特産品の開発が課題である。 ・米価下落や後継者不足が問題になっている。

資料2　策定作業の経過

月　　日	会場	会議名	内　容
令和5年 7月 6日（木）	石越公民館	第1回策定委員会	地域づくり計画策定の説明等
9月 7日（木）	石越公民館	第2回策定委員会	いしこし3づくり計画の検証
11月16日（木）	石越公民館	第3回策定委員会	地域カルテについて協議
令和6年 1月 18日（木）	石越公民館	第4回策定委員会	地域づくり計画書（案）の検討
3月 14日（木）	石越公民館	第5回策定委員会	地域づくり計画書・概要版等の検討
3月28日（木）	「いしこし地域づくり計画書」（概要版）の全戸配布		

資料3　いしこし地域づくり計画策定委員名簿　　（敬称略）

No.	役職名	所　　属	職　名	氏　名	備　　考
1	委員長	石越コミュニティ運営協議会	会　長	菅原 健一	
2	副委員長	石越コミュニティ運営協議会	副会長・専務	村上 昭一	
3	副委員長	石越コミュニティ運営協議会	副会長	佐藤 豊子	
4	委　員	若者井戸端会議	代　表	小野寺央智	
5	委　員	若者井戸端会議	書　記	千葉 智子	
6	委　員	登米市社会福祉協議会	会　長	千葉 博行	行政区長
7	委　員	登米市スポーツ少年団石越支部	副支部長	松浦 良彦	社会体育振興員
8	委　員	コーラスともだち	代　表	小野寺千恵	
9	委　員	登米市スポーツ推進委員	副会長	佐々木千春	
10	委　員	元公立中学校長		伊藤　浩	行政区長
11	委　員	元登米市職員		佐々木秀美	
12	委　員	石越小学校PTA	会　長	小野寺 毅	
13	委　員	石越中学校PTA	3学年委員長	木村 幸江	
14	委　員	高校生	1年	渡辺 健心	
15	委　員	高校生	1年	工藤 鈴々	
16	事務局	石越コミュニティ運営協議会	事務局長	小野寺彰哉	
17	事務局	石越コミュニティ運営協議会	集落支援員	金　浩稔	
18	事務局	石越コミュニティ運営協議会	事務局員	阿部 麻紀	
19	事務局	石越コミュニティ運営協議会	事務局員	千葉 真代	

石越コミュニティ運営協議会運動目標

1　石越コミュニティ組織の強化、推進

2　地域づくり事業の普及推進

3　健全なくらしと快適な生活環境の推進

4　地域の環境保全とすばらしいまち創り活動推進

5　生涯学習と体育の推進

石越コミュニティ運営協議会

（いしこし地域づくり計画策定委員会）

【事務局】〒989−4703 宮城県登米市石越町南郷字矢作122−2 石越公民館内

石越コミュニティ運営協議会

TEL：0228（34）2036

FAX：0228（34）3193

E-mail：ishikomi35@aj.wakwak.com

ホームページ：https://ishikoshi.com/

【公式 HP】

【LINE】